



《医療機能》 新生児のうち、出生時体重が1,500g未満数

<項目解説>

出生時体重が1,500g未満の新生児を極小低出生体重児と言い、NICU（新生児特定集中治療室）における管理・人工呼吸器・点滴や管からの栄養管理など、特別な治療が必要となります。そのため、高度な設備と技術力のあるスタッフを24時間体制で配置する必要があり、極めて重症度の高い周産期の患者さまを受け入れていることを表します。

<当院の実績>

【H24年度】	1,500g未満	0人	【H25年度】	1,500g未満	4人
	1,500g～2,000g未満	1人		1,500g～2,000g未満	1人
	2,000g～2,500g未満	12人		2,000g～2,500g未満	15人
	2,500g以上	198人		2,500g以上	207人
【H26年度】	1,500g未満	0人			
	1,500g～2,000g未満	1人			
	2,000g～2,500g未満	18人			
	2,500g以上	209人			

<当院の自己点検評価>

様々な合併症を持つ妊婦や長期薬物服用の妊婦が増加し、これらの妊婦から出生した児の管理法の確立が求められているだけでなく、新生児期に特有の疾患の中には未だその原因が不明であったり、治療やケアの方法が確立されていないものが数々あります。

少産少死の現代において、救命される新生児の質の向上を目指した医療を今後も提供して参ります。

<定義>

自院における出生数で入院を必要とした新生児数
死産は除きます

<算式>

実数